

福井県高次脳機能障害者と家族の会

ふくわらい

福笑井

第 29 号

2023年4月20日発行

福井県高次脳機能障害者と家族の会

「福笑井」事務局

10月例会(10月30日)が開かれました！！

R. Y

令和4年10月例会で、クリスマスリースとしめ飾りを作りました。円山公民館のいつもの会場に入ると、針葉樹の香りが充満していました。

ふっと、子供の頃のクリスマスを思い出しました。田舎でしたし、今みたいなクリスマスツリーはなくて、父親が山から木を切り出してきた、それに飾り付けをしました。勿論モミの木ではなく、名前も知らないありふれた緑の木でした。家の中にはずっとツンとした針葉樹の香りが漂っていました。匂いって、古い記憶を思いださせてくれますネ。とても懐かしい気持ちになりました。

クリスマスもしめ飾りも、天然素材でしたから、玄関に飾っておくと、少しずつ変化していくのが楽しみでした。縮れていく葉っぱもあり、蓄みたいな木の実が開いたり、クリスマスが近づく楽しみをリースの変化とともに感じられました。

福笑井の例会では、季節感のある企画が多くて、いつも楽しませてもらっています。当事者の夫も、普段は世話してくれる人と自分の関係だけど、当事者同士 横並びのお付き合いが出来るので、楽だと言います。コロナの行動制限も解除されて、以前の日常生活が戻ってきました。感染対策に注意しながら、令和5年度も福笑井を楽しみたいと思います。



11月27日 ピアサポート研修



K. H

今回は、**本人（当事者）**による**ピアサポート**について、Zoomによるリモート会議が行われました。

（参加者7名、富山県2名含む）

はじめに 伊藤先生より前回の確認として、ピアサポートとは同じ立場の者が安心して話せる場を作り、話すことで同じ思いや痛みとして共有できること、「回復の物語」は、すっかり回復とはいかないが混んとした物語を模索することである。

- ・まず受け入れて聴く。（傾聴、体験受容）
- ・安心して話せる場を作る。変化に対しても心を開く。
- ・経験は多様であり、自分とは違う場面もあるし、共通点もある。

事例報告 当事者（本人）富山県S氏（52歳）男性の体験談を聞く。

5年前に脳出血。後遺症として左マヒ、高次脳機能障害が残った。以前から高血圧があっても暴飲暴食をしたので、自業自得、身から出た錆と思った。しかし障害を受け入れつつも、QOL（生活の質の向上）を目指して毎日のリハビリと規則正しい生活を送り、生活の目標としては

- ① 復職する ②車の運転をする ③仲間とゴルフをする と決めた。

妻と外出すると頭がスッキリし、感情のコントロールも出来た。

ピアサポートとして当事者（本人）同士で話すことで、気持ちが楽になった。

感想【ズームで研修に参加して】

まず、当事者がピアサポートに取り組んでいることと、ズームを通して研修に参加して体験や意見を報告することに驚きました。

障害も多様ですが、自分の体験（物語）を整理し障害を受け入れつつも、とても前向きな方だと感心しました。ピアサポートをする側として、受容し共感して聴くなどのコミュニケーションがとれるからでしょう。

素朴に同じ体験をしたものとして心を通わすことで、S氏も「本人同士で話をすると楽になった」と話していました。それが本人同士のピアサポートであり、そこまでできることは 素晴らしい!! と思いました。

12月例会 クリスマス会が開かれました！！



12月25日クリスマス会 円山公民館にて

E.M

今年は25日ぴったりの日に福笑井のクリスマス会が開催されました。雪の心配、コロナの不安となかなか大変な時期ではありましたが、感染対策等行いながら、楽しく参加できました。今回はパコーンの山内さんや、そして何と云っても会員の岡本さん、西さんの奥さんの3人による演奏で楽しませて頂き、とても心がほっこりし、楽しかったです。お忙しい中を練習され、当日に臨まれ、クリスマスにちなんだ曲をいくつも聞かせてもらいました。楽器の音色にとっても癒されました。また、皆でパコーンを叩いて参加することもでき、福笑井っていいなとしみじみ思いました。

その後のゲームでは、豆を箸でつまんでお皿に入れ替えるのですが、普段使っているお箸も競争となると焦ってしまい、うまくいきません。久しぶりに一生懸命になって頑張りましたよね。毎年恒例のプレゼント交換、帰りにはおみやげもあり、楽しい半日を過ごすことができました。皆様、ご参加ありがとうございました。



豆つかみゲーム

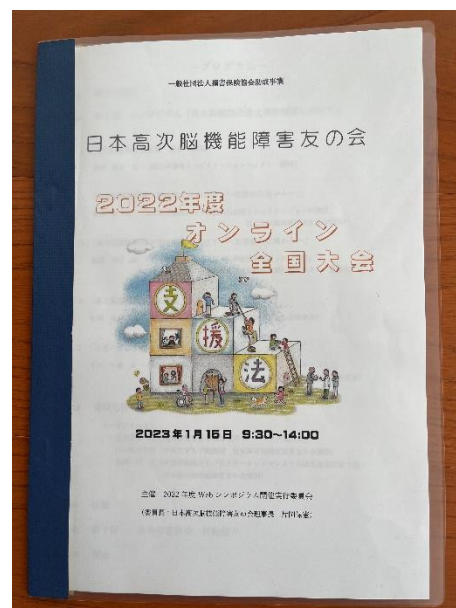
みなさん、真剣なまなざし…👁👁



1月15日（日）日本高次脳機能障害友の会 オンライン全国大会が開かれました

Y. N

コロナ流行以前には毎年開催されていた日本高次脳機能障害友の会全国大会が1月15日（日）9:30～14:00にオンラインで開かれました。事前に冊子が届いたのですが、日々コウジ中の作者である柴本礼さんの心温まる表紙に思わず見入ってしまいました。全国大会のプログラムは以下の通りでした。



第1部 シンポジウム「高次脳機能障害支援法制定に向けて」

1. 「高次脳機能障害支援 現状と課題」

深津 玲子氏（国立障害者リハビリテーションセンター顧問）

2. 「高次脳機能障害支援法制定に向けて～医療の立場から～」

渡邊 修氏（東京慈恵会医科大学教授）

3. 「高次脳機能障害支援法制定に向けて～支援者の立場から～」

加藤 俊宏氏（「笑い太鼓」高次脳機能障害愛知東部支援センター施設長）

4. 「高次脳機能障害支援法制定に向けて」

片岡 保憲氏（日本高次脳機能障害友の会理事長）

5. 「小児の家族会の立場から」

中村 千穂氏（高次脳機能障害の子供を持つ家族の会 ハイリハキッズ代表）

第2部 各地の家族会 活動紹介

◇感想◇

このシンポジウムを聞いて高次脳機能障害支援法の制定に向けて全国各地のさまざまな分野で動き始めていることを知りました。しかし、医療・行政・福祉職に高次脳機能障害の知識が不足しているなど問題点もあるので、一般社会の理解も含めてもっと世の中に浸透してほしいと思いました。



2月例会が開かれました！！

2月例会「室内スポーツを楽しむ」 R5.2.26（日）

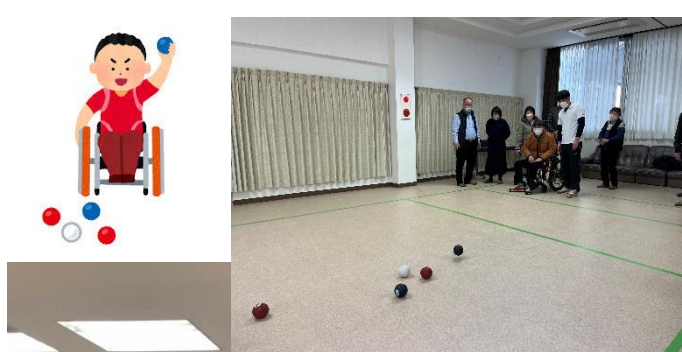
A.A

今年の冬もようやく終わりを告げて、早くも桜が満開を迎える季節となりました。

2月例会は「室内スポーツを楽しむ」をテーマに、ボッチャ、スライディングペタンク計画しました。3名の講師をお招きして、最初にボッチャのルールを簡単に教えていただき、1チーム5～6人、計4チームに分かれて対戦形式で進めていきました。東京パラリンピックでボッチャが注目されましたが、私はルールを全く知りませんでした。

実際に教えていただくと、カーリングにルールが似ていました。（カーリングは冬季オリンピックをテレビでよく見ていました。）先攻が最初に中心となるボールを投げ、その近くに投げたボールに点数が入ります。選手は1投ずつ交代します。相手が投げたボールが間に割り込むと、相手方の点数となります。みんなの一投ごとに大歓声が起こり、一喜一憂しながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。

スライディングペタンクは、ボッチャのボールが木片のようなものに代わったもので、ボッチャに比べてコントロールが難しいように思いました。ボッチャやスライディングペタンク、また機会があったらやってみたいなと思いました。



赤い羽根使途選択募金にご協力の感謝とお礼



会長 村下 恵美子

平成 29 年より福笑井を指定して寄付をお願いする使途選択募金。本年もたくさんの皆様にご協力頂いて、目標を上回ることができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆様からの温かいお気持ちや、心のこもったメッセージにどれだけ勇気をもらい、背中を押されていることでしょうか。1 人ではない、仲間が大勢いてくださることに元気づけられ、前を向いて頑張れる気がいたします。

メッセージの一部です。

- ・いつも応援しています。
- ・高次脳機能障害の方々とご家族の笑顔が増えますように。
- ・わずかですが、気持ちだけさせていただきます。
- ・微力ではありますが支援させてください。
- ・土いじり私も大好きです。少しです。お役に立てたら幸いです。
- ・小さな根にもたくさん集まって大きくなりますようにながっております。

e t c . . . ありがとうございます。

不安や心配事は皆同じようにやってきますが、例会に参加したら心が軽くなったり、自分だけじゃないんだと思えたり、また次も来たいと思ってもらえるような会でありたいと願っています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



赤い羽根使途選択募金にご協力ありがとうございました

(敬称略)

山本法律事務所 山本晋太郎 秋本真希 前川徳子 長谷川美幸 長谷川啓太 岸名良重
川田里美 村下将規 石田優 平林幸二 山村美智子 岡田和代 仲村英一 浜頭享佑
三駄忠義 福島稔 野尻和美 織田新一 片倉弘枝 古川友美 笠塚美緒 松原洋子
坪川智美 谷口昭子 前田絹代 山内廣志 道下千恵 古川幸子 林原勇夫 竹内政信
古川忠雄 下牧美恵子 柴田邦雄 加藤礼子 細井千津恵 藪時夫 辻新馨 水元としみ
佐藤常子 谷口覚 廣岡みゆき 谷口由紀子 佐々木浩二 平井敏之 竹内誠治
伊藤智樹 加藤千枝子 三河文代 山崎知代美 村口多喜子 島田幸夫 中村和子
水林志保子 山口静枝 田中建邦 西史司 平井清子 (株)ノエビア加越販社 山川しげ子
越前信用金庫吉崎 佐々木泰子 藤井弘和 福井総合クリニック募金箱 大野住宅産業
荒井健太 (株)西川建築設計事務所 棟朝京美 マテリアル 脇本正則 高松俊裕
内田武志 瀬川和彦 坪内瞳 村下司紗 野村秀雄 菱田和代 柳瀬千恵 東野薫
島田善一 古川伸一 南部庄栄 富田浩生 松田由紀子 高畑富雄 小林康孝 服部秀子
辰村さとみ・北村みどり 三河健太郎 櫻田次夫 湯浅和幸 M建築板金工業所
中村正治 福井銀行大野支店 荒井明美 (有)福井ライフ損害保険 (株)坪内建設 村下修一
村下恵美子 (株)村下建築 中央共同募金会

✿ 会員募集中！！！！ ✿

「福笑井」は、高次脳機能障害者および家族が、生き生きとした生活ができるよう、福利と親睦を図り、社会に対して働きかけ、高次脳機能障害について理解を広めることを目的として作られた会です。

皆様の入会、応援、ご協力をお待ちしています。

年会費 正会員家族：3600 円 賛助会員：2000 円